

# 平成30年度 校内研修計画(案)

さつま町立宮之城中学校

## 1 テーマ研修

### (1) 研究テーマ

**確かな学力の定着を図る指導の工夫**  
～ 再編に向けた教育活動の見直し・充実を通して ～

### (2) テーマ設定の理由

#### ① 今日の課題から

次期学習指導要領が平成30年度から移行期間に入り、平成33年度から全面实施されることになっている。今回の改訂のポイントとしては、社会に開かれた教育課程を重視し、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することや知識の理解の質をさらに高め、「確かな学力」を育成することが重視されている。

そのためには、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図っていく必要がある。具体的には、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理していくことが求められている。今後、移行期間の対応として、また、再編に向けて、学校全体として教育内容や時間を適切に配分したり、必要な人的・物的体制を確保するなどして、教育活動の質を向上させ、学習の効果を高めていかなければならない。

教育内容の主な改善事項としては、①言語能力の確実な育成、②理数教育の充実、③伝統や文化に関する教育の充実、④道徳教育の充実、⑤体験活動の充実、⑥外国語教育の充実、などが柱として挙げられており、再編に向けた話し合いの中でも十分に考慮しながら全面实施に備えていきたい。

なお、近年の学校教育を取り巻く環境は急速に悪化していく傾向にあり、例えば、家庭や地域の教育力の低下、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、規範意識や倫理観の欠如等、多くの課題が指摘されている。その中で、生徒の学力向上やいじめ、不登校等への対応、人権同和教育や支援教育の充実、中学校の再編や地域との連携などへの対応等、取り組むべき課題が山積しており、様々な課題に適切に対応するための教員の資質向上が不可欠である。

学力に関する本校の実態・傾向は、平成29年度の鹿児島学習定着度調査結果によると、新2年生（昨年度の1年時の結果参照）では、特に理数系の基礎学力は概ね定着しているが、国語や英語などの言語の分野で定着が不十分という結果が得られている。また、新3年生（昨年度の2年時の結果参照）では、理科と英語は県平均を上回ったが、国語、社会、数学については定着が不十分であったと思われる。また、全国学力・学習状況調査結果では、国語、数学ともに課題が残っており、その他の教科も含めて改善策を立て実践していく必要があり、基礎的な知識や技能の定着を図りながら、知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力や判断力、表現力等を育成していかなければならない。

また、基礎学力の定着を図るためには家庭での学習が不可欠であり、毎日の授業に対する予習・復習の充実、「宅習（及び英宅）」への取組、さらに各教科のワークブックや宿題（課題）の活用など、保護者の理解と協力を得ながら、生徒の家庭学習に対する意識を高めるとともに、

十分な学習時間が確保できるように働きかけていく必要がある。

## ② 再編に向けて

本年度は、平成31年度の再編に向けた話し合いを充実させ、様々な教育活動を見直していかなければならない。そのためには、町内の他の中学校の職員とも積極的に情報交換や意見交換を行い、再編後も生徒が混乱せずに学習に専念できる環境を整えたい。

そこで、今後も「確かな学力」を育成することが教育活動の柱として重視されることから、昨年までの取組や研究の成果を生かし、主題については継続研究をおこなう。副題は、1年後の再編を成功させることが今年度の最優先課題であることから、「再編に向けた教育活動の見直し・充実を通して」へと変更した。ただし、昨年度の研究の柱であった人権同和教育については、おろそかにすることなく、あらゆる教育活動において、人権同和教育の視点に立った活動（や指導）をより一層充実させていかなければならない。また、本研究主題に基づく研究授業や授業研究については、全職員で共通理解を図り、積極的に実施していくものとする。

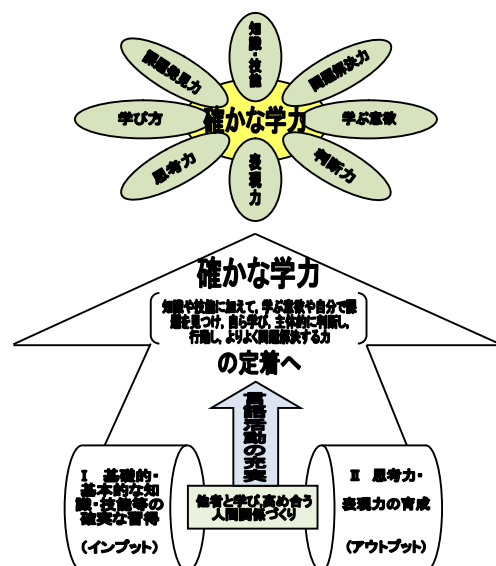
## (3) 研究のねらい

基礎的・基本的な知識・技能を伸ばすとともに、言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力等、その他の能力を高め、確かな学力を向上させる。

本校では、学力を「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」部分に分け、その両輪をつなぐ軸を他者と学び、高め合う人間関係づくりととらえた。そして、「言語活動の充実」という方向性を定め、確かな学力の定着を目指している。

来年度の再編に向けて様々な準備が必要となってくるが、まずは本校の生徒の学力の実態を踏まえ、着実に基礎・基本の定着を図り、学力を向上させておく必要がある。

特に、再編後の教科指導に関して、目指す生徒像や学力向上の手立てなどが共通理解・共通実践できるように、他校の生徒の実態や授業に進め方などについても情報を共有し、研究を深めていかなければならないであろう。



## (4) 本校の主な研究内容として（編成に向けて検討していく）

### ① 他者と学び、高め合う人間関係づくりを推進する。

ア 各教科や学年部を中心にしながら授業実践をおこなう。

イ 一人一人の学びを尊重する集団づくりに努める。

ウ 再編に向けて、再編する生徒同士の人間関係づくりを図る。

### ② 宮中5エッセンシャルズ+1を共通実践の核として取り組む。

### ③ 分かる授業を実践する。

ア 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるための指導法を工夫改善する。

- イ 言語活動を取り入れた授業を一層，推進する。
- ウ 「さつまる運動」における授業に関する部分を充実させる。
- エ 学力差に応じた指導法を工夫改善する。
- オ 課題解決型学習の研究を進める。

④ 家庭学習習慣を確立させ，量と質の向上をさせる。

- ア 特別支援が必要な生徒への家庭学習の提示の工夫と見届けをする。
- イ 「さつまタイム」を研究・実践をする。
- ウ 保護者と相互理解・連携しながら，家庭学習習慣を確立させる。(特に，中1)

⑤ 生徒個々の学力を総合的に把握する。

諸検査（WISCⅢ，標準学力検査，知能検査，AAI，高校入試，全国学力・学習状況調査，鹿児島学習定着度調査 等），生徒による自己評価等，学力を総合的に把握する。諸検査等の分析結果を生かした実践を推進する。

## 2 年間計画（案）

月	日	曜	校時	内 容	形 態	担当係
4	4	水	未定	平成30年度 校内研修計画の確認 人権同和教育に関する研修①	全 体	職員研修 人権同和教育
	5	木	未定	配慮を要する生徒の共通理解①(家庭訪問前)	全 体	生徒指導主任
	9	月	⑥×	危機管理マニュアル研修(冊子配布・検討) ※食物アレルギー対策を含む	全 体	校長(教頭) 栄養教諭，給食係
5	1	火	⑥×	配慮を要する生徒の共通理解②(家庭訪問後) 服務研修①	全 体	生徒指導主任 校長(教頭)
	7	月	B	再編にともなう研修①(研究内容に関する検討)	全 体	職員研修
	28	月	⑥×	標準学力検査分析	全体, 教科	学習指導法改善 各教科
6	4	月	B	人権同和教育に関する研修②(特設授業)	全体, 学年	人権同和教育
7	2	月	B	性に関する特設授業 ※相互授業参観週間	全 体	保健主任
8 (夏季休業)	20	月	午前	AED研修(講師による研修) 「学びの組織活性化」推進プロジェクト	全 体	養護教諭 職員研修・学習指導法改善
	21	火	午後	特別支援教育②(講師による研修)	全 体	特別支援教育
	31	金	午前	再編にともなう研修③(各教科)	全体, 教科	職員研修, 各教科
11	12	月	B	人権同和教育に関する研修③(特設授業)	全体, 学年	人権同和教育
12	5	水	⑥×	服務研修②	全 体	校長(教頭)
1	28	月	⑥×	今年度の反省と次年度の計画について	全 体	職員研修